

東京冀北



令和元年 11月 16日



掛川城から眺める掛川西高校



浜岡町海岸の日の出

会長退任の挨拶 四年間を振り返って



東京冀北会
会長
鈴木 正具
高十九回卒

本年十一月の総会で二期、通算四年の役員の任期が満了となります。会員の皆さんに支えられて無事に次期に引き継ぐことが出来そうです。

岡本初代会長の追悼

この間で最も残念なことは、本年七月十四日に岡本甲子男初代会長（中三十八回卒）が亡くなられたことです。御歳は九十四歳とのことです。岡本初代会長は、平成元年の当会の設立以来十年に亘り会長を務められ、「継続は力なり」のスローガンのもと、常に会の継続ということに苦心され現在の東京冀北会の基礎を築かれた方です。私なども、会の運営について迷った時は、大先輩には到底及ばないまでも岡本会長だったらどのように判断しただろうなどと心の支えとしておりました。ここ2、3年当会の会合ではお顔を拝見できなかったのですが、時々人伝にお元気にされているということをお聞きして安心しておりましたところ、訃報に接しましてまことに残念です。会からはお供え物をお送りしましたところ

ご婦人からご丁寧な礼状を頂きました。痛みや苦しみもなくお静かな最期であったとのことです。また、「郷里を離れたの生涯ではございましたがずっと掛中への誇りと愛着を持っておりました」とも書かれておりましたが、当会会員の多くの心に沁みるところかと思えます。会の基礎を築いていただいた岡本初代会長に感謝し、継続への志を大切にしたいと思えます。心からご冥福をお祈りいたします。

皆さんに感謝

この四年間を通じて役員及び幹事の皆さんから、一方ならないご支援を頂きました。そのすべて書きたいところですが、ここでは二点のみ言及させていただきます。まず、会の運営についての森田重敏代表幹事（高二十一回卒）と山村十吉事務局長（高二十三回卒）の功績です。森田さんは古くからいろいろな役職でこの会に関与されてきていて、会合の度に過去の経緯などを踏まえた詳細な準備をしていただきました。また、山村さんには、会合や作業のために会社の会議室などを提供していただき、かつ会の財政については、引き締めるところを引き締め、将来に向けてかなり安心できる健全な状態にして頂きました。有難うございました。もう一点は、HPやメールリングリストなどを整備して東京冀北会の輪を広げてくれた端詰正子事務局長（高二十四回卒）と、そのプラットフォームに

積極的に投稿して実のあるものにしてくれた三谷充弘さん（高二十六回卒）のご貢献です。会の継続のためには、若手が継続的に会の活動に加わってくれることが不可欠ですが、そのためのHP、メーリングリスト、そしてSNSの活用など、大きな役割を果たすだろうと思います。その導入を殆ど一人で進めてくれた端詰さん、そして、その活用の先例を示してくれた三谷さんに大いに感謝したいと思います。三谷さんによる郷土の歴史探訪は、多くの卒業生に興味深く読まれたことと思います。

特定の四名のみお名前を挙げさせていただきますましたが、他の皆さん、スペースの関係でご了承ください。

多くの出会い

東京冀北会の活動を通じ、また、この四年間の役員として活動を通じて、多くの同窓生に巡り合い、あるいはご活躍を耳にする機会がありました。HPに活動などが紹介されていますが、彫金家で人間国宝の六角幸枝さん（高十六回卒）を始め、声楽家、劇作家、彫刻家、画家、能楽師、作家など、芸術の世界で活躍されている多くの方々がいらっしゃることを知り、またご縁を頂きました。私と同じ法曹界の先輩や後輩にも巡り合えました。実業界で活躍の多くの卒業生のこともお聞きしました。さらに、来年のパラリンピックで活躍が期待される卒業生もおら

れます。そして何よりも、巡り合えた多くの先輩、同輩、後輩の一人一人が、知性と品格を兼ね備えた人生の達人ともいうべき人達で、出会えたことは私の大きな財産です。さすが冀北学舎の流れを汲む伝統ある掛中・掛西だという思いを新たにしております。

この会の最大のメリットは、利害得失のない形で母校愛、郷土愛を満喫できるところにあると思います。岡本初代会長が『東京冀北』の二十周年記念号に「我々、郷土への思いは格別なもので歳を重ねるほど深まるものです。」と書かれておられます。私もそのことがだんだんと実感として分かる年齢に

東京冀北会 総会・懇親会



在りし日の岡本甲子男氏
第27回東京冀北会同窓会にて（左から2番目）

なつて参りました。この会が母校や郷土に熱い思いを持つ皆様に支えられ、今後とも末永く続くことを祈念して、そして皆様のご支援に改めて感謝して、退任のご挨拶といたします。

映画「二宮金次郎」を観て



東京冀北会
会計監査
橋本 和久
高十九回卒

今夏、掛川市役所副市長に誘われて、映画「二宮金次郎」の有料試写会を観に行きました。掛川市、小田原市等報徳関係自治体及び報徳社関係者が資金を出し合った自主制作映画とのことです。

二宮金次郎については、大日本報徳社の講演会にも参加し本も読み、報徳思想については多少は知っていましたが、映画になるとどうだろうかと思っていました。ただ、わが母校の源流が報徳思想に基づく冀北学舎にあるので興味がありました。そして、素晴らしい映画でした。

これまで一度も映画化されることなかった二宮金次郎の激動の生涯を描いたものであり、農村改革、地方活性化等の革命家であり、まさに「プロジェクトx」なるものです。

封建社会に立ち向かう金次郎の生き様も凄いです。農家の田植え、稲刈り、居間での団欒等は昔の農村の風景であり、幼少の頃を懐かしく思い出しました。

「積少為大」（小さな事を積み重ねて大きな事を成す）なる報徳思想は、その後岡田良一郎により冀北学舎・掛川中学・掛川西高に引き継がれていると思います。

原作は三戸岡道夫氏で東京冀北会二代会長、大貫満雄氏であります。

実行委員会が制作した映画であり、全国各地の市民会館や公民館等でも上映されています。一般的にはあまり知られていないが一見の価値はあります。なお、東京冀北会も新しい時代令和元年に三十一年を迎えます。より良い同窓会にしていくなかで微力ながら努力してまいりたいと思います。



映画「二宮金次郎」パンフレット

本年七月に、初代会長岡本甲子男氏が逝去されました。創設期に事務局の一員として仕事をさせていただいたことを思い出します。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

映画「二宮金次郎」

寿アンコール上映

2020年1月2日（木）

1月26日（日）

東京都写真美術館ホール

（恵比寿ガーデンプレイス内）

時系列的俯瞰 日本経済の3フェーズ



松島 克守

高十六回卒

長期的な時系列データは、日常的な狭い視野で失われている大局的な事実を再発見させ、現在を正しく再認識させてくれる。日本経済の1956年から現在までの経済成長率の時系列データを見ると、日本経済に三つのフェーズがあり現在は第3フェーズにある。

第1フェーズは約10%の高度成長期である。東京オリンピックそして大阪万博という日本が先進国になる時期である。この時代は新幹線、高速道路、首都高速というインフラが整備され、住宅には水洗トイレが普及していった時代であった。食卓にも肉が並ぶ時代でもあった。

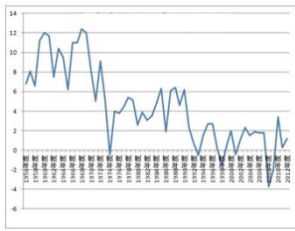
そしてこの時代は「作れば売れる時代」であった。カメラが欲しい、テレビが欲しい、車が欲しいそんな時代であった。自動車と電機という生活に密着した産業が成長した。ソニーやホンダが創業した時代であった。

第2フェーズはオイルショックで始まり、74年からバブル崩壊の91年

の期間である。この時代の経済成長率は約5%であった。第4次中東戦争の影響により原油価格が約5ドルから12ドルそして40ドルに不連続的に高騰した。これは日本経済を直撃した。74年には高度成長からいきなりマイナス成長になった。オイルショックは日本経済に大混乱をもたらした。しかし日本人はがむしゃらに働いてこの石油ショックを乗り越え、80年代は日本の黄金時代となった。鉄鋼業、造船業、半導体産業、自動車産業が世界一になり、世界第2の経済大国となった。

バブル崩壊で日本経済の第3フェーズは始まり今日に至る。この間の経済成長率は約1%から2%近い成長率である。バブル後の30年間で日本は成長力を失った。選択と集中、カイゼン、コストダウンに明け暮れ、90年から始まったデジタル革命に乗り遅れた。WW、ネット、クラウド、

スマホが作り出したデジタル経済の中で存在感を喪失した。「モノづくり」というハード至上主義が経済を時代遅れにした。手堅い人をよしとする文化も。



（東大名誉教授）

昭和47年卒の 一卒業生の近況



松浦 常男

高二十四回卒

最近、藤原正彦さんのエッセー集「知れば知るほど」を読んでいたら、「生まれてから二十五年間ほどモテナイ期（その後はずっとバカモテナイ）という記述がありました。私の場合は掛川西校の時を底にしてモテナイ期が長く、大学勤務後に「女子学生から先生と言われてモテナイ」と勘違い期となりました。先日、4年生と1泊2日の箱根ゼミ旅行に行ってきましたが、年甲斐もなくはしゃいでしまいました（写真）。

私は十五年前から、以前は日野、現在は渋谷にある実践女子大学に勤めています。大学に来る前に勤務していた警察庁科学警察研究所交通安全研究室での研究の延長で、専門は交通心理学ですが、大学では心理学全般を教えています。冒頭でゼミ旅行の話をしました

が、私が所属する人間社会学部では、3年生と4年生には卒行論文の作成に向けた専門ゼミが週1回あります。私は心理学系の先生なので、ゼミ生は心



星の王子さまミュージアム
園内にて(2019/8/27)

理学に関わる卒論をクリスマスまでに書く必要があり、その準備を兼ねて4年生とゼミ旅行に行ったわけです。

学科長や学部長などの役職が回ってこない限り、大学教員は比較的ヒマな職業です。週に数回の授業と1回程度の会議だけです。しかし、それだけでは教授の名がすたるので、研究や執筆活動は欠かせません。研究の方は怠けて業績が上がっていませんが、本の執筆活動は順調で4冊出版することができました。初心運転者の心理学（企業開発センター、2005年）、統計データが語る交通事故防止のヒント（東京法令出版、2014年）、高齢ドライバーの安全心理学（東京大学出版会、2017年）などです。来年は歩行者関係の本が出せればいいなと思っています。

最後に、私はまだ東京での同窓会に出席したことがありません。定年をすぎたら出ようと思います。その節にはよろしく願います。

仏像と私



秋元 文子

(旧姓 石山)

高二十九回卒

小学生の頃、百科事典を見ていて、阿修羅像の説明文を見つけた。「一つの体に三つの顔、腕が六本なんて不気味」と思ったのに、添えられた奈良の興福寺の像の写真を見てびっくり。顔と腕が多くても、とても自然で美しい。これが私と仏像の出会いだった。

中学の修学旅行で行った奈良の法隆寺や京都の三十三間堂。なんとなく見学しただけなのに、何か心に残るものがあった。後に何度も訪れる、好きなお寺になった。

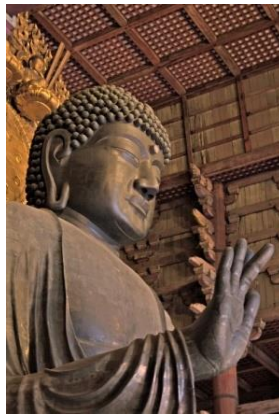
そして高校三年生の日本史で、中野敬一先生に出会った。中野先生は、仏像の種類や時代ごとの特徴を、とても詳しく教えてくださった。その授業は楽しく、私はいつのまにか仏像が好きになっていった。



国宝 阿修羅像

大学に入学してからは、お寺や仏教美術を学び、楽しむサークルに入った。そこで京都・奈良をはじめ、各地のお寺を訪ねて、いろいろな仏像を見学して、ますます仏像が好きになった。趣味を尋ねられたら「仏像鑑賞と読書」と答えるほどに。

今ではお寺に行くことはあまりないが、博物館や美術館には、よく仏像を見に行く。それが私の楽しみの一つになっている。



東大寺大仏

大学のサークルに入って間もない頃、東京のトップクラスの進学校出身の同期と話していて「仏像の特徴って、高校の日本史で習ったよね」と言うと、彼は「文化史は『教科書を読んでおけ』で終わりだよ」

私はそこで初めて、中野先生は自分が好きなことだから詳しく教えていたのだ、という事に気が付いたのであった。

でも、そのおかげで、私は好きなものを見つけたので、中野先生に感謝している。

長野県東御市湯の丸高原 高地トレーニング施設



杉山 文章

高二十九回卒

私が勤務する株式会社アプロダクトは、主としてステンレスプールの設計・製造・据え付けを行う会社ですが、当社が輸入代理店をしているイタリア製の「特設プール(注)」を受注した、長野県東御市湯の丸高原高地トレーニングプールをご紹介します。

東御市は、長野県の東部、群馬県嬭恋村との県境に位置し、上信越国立公園内にある標高1750m付近一帯の「湯の丸高原」に国内屈指の高地トレーニングの拠点の設置を目指してきました。まずは、国の補助制度を利用して湯の丸高原に陸上トレーニングの環境(全天候型400mトラック、林間800mジョギングコース、2500mトレイルランロード)の整備を行いました。

一方で、東御市は日本水泳連盟と高地トレーニング用のプール施設を整備すべく誘致運動を展開してきました。屋内プール施設の整備については最終的に比較的安価で、工期も短縮できる「特設プール」による事業推進を図ることを決断し、「ふるさと納税制度」による寄付を活用して事業展開を図って

います。ご興味のある方は、是非『湯の丸高原高地トレーニング施設支援サイト』(<https://yonomaru.city.tomina.gano.jp>)をご覧ください。

「特設プール」は屋内運動施設(体育館)内に設置され、50m×21m、水深2m、8レーンで、2019年10月20日に完成が予定されています。

日本の水泳選手の従来の高地トレーニングといえば、米国(フラッグスタッフ)、中国(昆明)、スペイン(グラナダ)など海外の施設に頼らざるを得ず、海外での練習を余儀なくされてきました。湯の丸高原に高地トレーニングプールが完成することで、高地トレーニングが日本国内でできることになり、移動に伴う選手への負荷が軽減され、また安心安全な国内の練習により選手層の広がり(ジュニアからの育成、タレント発掘)にもつながります。

2020年の東京オリンピック・パラリンピック及び2021年に福岡で開催予定の世界選手権に向けて念願の高地トレーニングの拠点が日本国内にできるのは、選手や関係者にとっては願ってもない朗報で、この施設が活用されれば、メダル獲得等の効果がおおいに期待



湯の丸高原施設

されます。

(注)数パターンの壁パネル(ステンレス板にPVCをライニングしたもの)と基礎との組み合わせで仕上げるので、従来ブルーよりも低予算で設置できるうえ、現場での工期が大幅に短縮できる。

高校時代を振り返り 思うこと



高橋 朋之
高二十九回卒

高校時代の思い出といえば、やはり高校野球我々の頃は、掛西が強かった時代でした。

二年の春は甲子園ベスト8に進出し、堀越学園とベスト4を掛けて対戦しました。我々と同学年の”花の中三トリ



第47回選抜高等学校野球大会
入場行進

オ(森昌子、桜田淳子、山口百恵)が堀越学園に通っており、森昌子が応援にやってくるという大騒ぎになったものでした。今は巨人軍の大監督になった原辰則の東海大相模が強かった大会です。我々が三年の時は、県予選でベスト4迄でしたが、卒業した翌年の夏は又優勝しました。決勝戦の草薙球場のアルプスタンドは同窓会さながらの大盛り上がりでした。東京ではあまり知名度の高くない掛西の名前を大学の同級生に対して誇らしく思ったものです。

もう一つの出来事と言えば、吉田拓郎、かぐや姫のあの伝説のつま恋野外ライブです。二年の高原教室(修学旅行の無い掛西のあの風変わりな山歩きは今も続いているのでしょうか)と重なり、ライブには行けなかったのですが、ライブビデオなるものをうす汚れた映画館に見に行った思い出があります。フオークソング(ニューミュージック)に夢中になっていた頃でした。

卒業後、流通業に就職しシステム開発をしてみました。私の入社した頃には、商品の注文もさすがに手書き電話によるものでは無くなっていました。が、公衆回線を使用しているオンライン発注でした。やがてネットワークは、ISDN、ADSL、光回線と飛躍的に高速化が進み、ホストコンピュータ処理からサーバー・パソコンへと移っていきます。九十年後半には、店舗の発注業務をGOTなるタブレットPCのはしりのよ

うな機器を使って行いました。電話は、ポケベル、PHSから携帯電話、スマホへとまたたくまに変わっていきました。平成の時代を、失われた十年、二十年と言われますが、家電等のものから売れるものが変わったただけのことで、百貨店、スーパーも御多分にもれず衰退しています。

今、三歳、一歳の孫たちがこともなげにスマホを使っているのを見るにつけ、DNAに刻まれているハズもないのに不思議な気がします。この子達が、二十歳になる世の中を想像すらすることはできませんが、



家族とともに

人としての情、人を思いやるという気持ちには不変なのだろうと信じます。過去を懐かしむのではなく、未来を楽しみに過ごしていこう、三十年代・四十代には思ってもみなかった思いをこの頃抱いています。

コミュニティに生きる



村田 なおみ
(旧姓 後藤)
高二十九回卒

寄稿させていただくにあたり、まず頭に浮かんだこれらの題材の中でどれにしようかと悩んだ末に、結局見ただけ行っただけでは何ら深みもなく、すぐに完全に行き詰りました。そこで、あまり格好をつけず背伸びをしないで、今の生活そのものをさらっと書こうと決めました。

まだ純情だった中学生の頃、「アルト・ハイデルベルク」で公子カール・ハインリッヒと女給ケーティの純愛に心打たれ、後に二十代でハイデルベルク城からネッカー川を見おろした日の感動。



アルハンブラ宮殿にて

「愛と青春の旅立ち」の舞台ポートタウンゼントの士官学校跡で、主人公をまねて腕立て伏せをしたシアトル在住時代の旅。

新卒で就職した音楽産業で残業続きであった頃、帰宅後「別冊マーガレット」に掲載されていた榎村さとする作の「愛のアランフェス」で毎晩癒されていたことがずっと心に残り、長年の夢を実現させて近年訪れたアルハンブラ宮殿。それらのいづれもが、日常を離れたキラキラした思い出深い出来事です。

私は専業主婦生活を経て、子供が小学校低学年の時に公共施設の管理と併設児童館の指導員という職に就き今に至っています。施設は約三十の地域団体から選出された運営委員による指定管理者制度で運営がなされ、地域にお住まいの方々の生活環境の向上のために福祉の増進と文化の向上を図ることを目的として設立されているものです。

私はここで、地域に根差して貢献される多くのボランティアの方々とお会い、それまではほとんど知らなかった世界を知りました。自治会やPTAの活動に参加した経験はあるものの、地区社会福祉協議会・青少年指導員・体育振興委員・健康普及員等々の地域団体が堅実に活動し、私自身や家族も普通に生活をするうえで多くの恩恵を受けて来ていたことに初めて気づきました。活動をされているのは、若いお母さま方や現役世代の方々はもちろんのこと、とりわけリタイアされた高齢者と呼ばれる世代の先輩方が中心となっている団体も数多く、本当に頭が下がるばかりです。

そのように老若男女を問わず地域に尽くし、ご自身もそれを生きがいとされている、まるで「地上の星」のような方々との出会いが私を少しずつ変えてきてくれました。今回二十九回卒として総会のお手伝いをさせていただき気持ちになったことにも今の環境が少なからず影響しているのは確かです。昨年還暦を迎えた私ですが、このようなコミュニケーションに生きる生活の中で、

人生の原点・出発点



山田 聡
高二十九回卒

まだまだ「ひよっこ」として「人」としての成長を目指す毎日です。

いつものように京葉線に乗って車内広告に目をやると：あ！法多山の団子だ！横を見ると掛川城、そして茶畑。掛川は、静岡は観光地なんだよな：法多山の団子久しぶりに食べたいなあ。今年で定年を迎え、年収三分の一以下でも延長継続勤務を選んだ。掛川に戻ると気持ちはずいぶん変わった。父は七年前に他界し、母も昨年千葉県の施設に入居。すっかり故郷が、掛川・掛西が遠くなってしまったが、掛西は私の人生の原点であり出発点であった。

幼少時代から夏の行楽は親父の母校掛西の高校野球県予選の応援の同行。普段でも親父は近所のおじさんたちと各家で昼夜に酒茶を飲み交わしながら掛西の野球談義が掛西のネット裏。当然高校進学は掛西が義務。勉強しないと胸ぐらを掴まれて恫喝されたことも総領(長男)が掛西に入れるか否かが家の威信に関わる世間体。掛西に入学することが全てだった。

だから入学後は無気力な毎日。父は

市役所にでも入れてもらえ！？家業でも継ぐか？冗談じゃない！仲のいい友達は東京の私立へ。で独りぼっちになるのが嫌だから、大都会東京の華やかな独り暮らしに憧れていたから、360人中300番台の成績にもかかわらず早稲田合格を条件に私立文系コースへ。結果は惨敗。滑り止め大学(本当は実力相当大学)に入学し、ゼミコネで一応大企業に就職し、なんとか定年まで勤めあげる。山あり谷ありも、ほぼ合格点の楽しい人生であった。これも入学を義務付けられた掛西のお陰である。

でも掛川は随分変わってしまった。ジャスコやユニーに席巻された街はシヤッター街に。新幹線の駅が大きな柱だが、この先の発展は見込み薄。住人不在の土地家屋も売却してしまった。そんな時、幹事年との連絡が。何かお役に立てればと

いふほどではなく、何か関わらせていただければと思う今日この頃。たまにたまテレビで二俣線(今では天竜浜名湖線)の名所を訪れる番組を目にした。知らないところばかり。探索してみるかな。そして何と言っても鰻！日本中の鰻を食したが、掛川と佐原が双璧。鰻食べに行くかな！



京葉線の電車広告

車窓からみる天守台への思い



横山 茂弘
高二十九回卒

掛川市から離れて四〇年弱、ご無沙汰であった掛川との関係が、少し、変わってきた。

きっかけは、私の生家である松ヶ岡が市の文化財になり、そのことに尽力いただいた西校の先輩から「掛川にできることはないか」とのお話しからであった。

そこでふと思ったのが、東日本大震災の復興ボランティアで感じていた人と人との絆、コミュニケーションづくりであった。

そのことを話すと、掛川には連綿を受け継がれている報徳文化があり、それは人と人が交流しないと続かないこと、それが、新幹線の掛川駅設置に繋がったと伺った。

そういふ文化を育むお手伝いになればと、



2016年9月10日 人間国宝 室瀬和美さん
伝統工芸教室 横須賀小学校にて



ブラジルの女性医師たちと 東京療院（品川）左2人目

私が勤めるMOA美術館、品川で統合医療を進める東京療院が東日本大震災の復興支援として行った人間国宝による芸術教室や花による芸術療法、自然治癒力を高めるエネルギー療法の効果を紹介した。

それがいいということで、膝芸の人間国宝の室瀬和美先生や掛川西高の先輩である金工の大角幸枝先生の伝統工芸教室、秀吉由来の「黄金の茶室」や茶道具の展示、松ヶ岡を使った芸術療法として茶の湯、全国の超高齢社会の先進的な取り組みを進めるふくしあ活動とのコラボ講演会を進めた。

印象的であったのが、室瀬先生の教室で落ち着かない子どもたちが、集中して素晴らしい作品をつくった事実を西高の先輩たちが、公益社団法人日本工芸会に報告してくれた。

その結果、掛川市での伝統工芸教室が様々な人間国宝の先生方が来て、子どもたちへの教室を継続してくれることになった。

今年、タイ国の文部省の方々が、掛川への視察を希望され、忙しい中、西高の先輩、仲間、後輩が、受け入れをしてくださいました。

文部省の局次長（日本の事務次官）の方々から、「海外視察は、経済制度の仕組みの話が多いが、今回は一番知りたい哲学や文化を学ぶことができた」との反響をいただきました。

これまで出張で眠って通り過ぎていた掛川駅や天守台をみるのが習慣になった、「その麓にある」西高の先輩や仲間、後輩に感謝をしつつ。

めげず たゆまず 崩折れず



渡辺 静雄
高二十九回卒

大学を卒業し、東京都の教育公務員になりましたので、故郷を離れて長い月日が経ちました。その上、長期の海外生活で、めったに帰省することのないまま年ばかり取ってしまいました。

最初の海外は、JICA派遣で中央アメリカに行きました。熱帯雨林の中

でマヤ遺跡を発掘し現地人に技術指導を行いました。が、今考えると夢のような生活でした。電気や水道もなく、千年前のマヤ人と遜色ないと思えるような住環境でしたが、日々新しい発見があり、毎日が刺激的でした。また自身を見つめ直し、日本や世界について考えるよい機会となりました。

帰国後、在外教育に貢献しようと日本人学校を希望し、スペインとメキシコに赴任しました。

また東京都を早期退職後も、二年間メキシコの現地私立学校・日本メキシコ学院で勤務しました。この学校は、日本政府が資金援助して作った国際校です。日本人とメキシコ人が同じ学校で授業を受けます。言葉やカリキュラムの違いはありますが、英語を共通語として体育や美術・音楽には一緒に取り組みます。日本人のスペイン語学習、メキシコ人の日本語学習は必修です。お互いの良さを認め合うことを根幹にして、違った言語・文化の子どもたちを関わり合わせ、国際人として育てていくことを目指した学校です。ただし、理想と現実のギャップは大きく、院長として価値観の違いによる軋轢に頭を悩ましたことも数多くありました。

そんな時は、「希望の懸を射るまではめげず たゆまず 崩折れず」の歌詞が何度も頭をよぎり、力を与えてくれました。その意味では、あの厳しかった新入生の時の応援練習にも感謝しかけてはいけません。

こうした経験を経て、現在は青年海

外協力隊経験者を中心に組織されている公益社団法人青年海外協力協会に所属し、JR新浦安駅前にある浦安市国際センター（指定管理）に勤めています。主な業務は在任外国人に日本語や日本の文化を教えると共に、日本人向けには外国語や異文化理解・多文化共生の講座や映画会・民族楽器のコンサート等を開いています。浦安市には国際的に有名な遊園地があるため、街中で外国人を多く見かけます。また在任外国人も増加しているため、多文化共生のまちづくりを急ピッチで進めているところです。学校に勤めていた私の強みを生かし、市内の大学・高校から小学校まで巻き込んだ連携を作り、国際交流や多文化共生に係るイベントを盛り上げていきます。



アンデス音楽のコンサート後、演奏者と伴に（右端が筆者）

高卒業後四〇年以上の月日が経ったことが夢のようですが、今でも逆川に面した正門や山岳部の城跡でのトレーニングを懐かしく思い出します。やっぱり自分の原点は「掛西」だと、改めて感じています。（浦和市国際センター長）

不規則な生活を過ごす 危険性



榛葉 繁紀

高三十四回卒

現在社会は、情報伝達の発達、グローバル化、サービス及び利便性の向上などにより二十四時間社会と化しています。この二十四時間社会を支える上で重要な仕組みは、シフトワーク（昼夜交替勤務）です。我が国におけるシフトワークと病気に関する大規模調査によると、虚血性心疾患による死亡のリスクがシフトワークにより約2倍高まることが示されています。またシフトワークにより中性脂肪値、HDLコレステロール値、肥満のうち、少なくとも二つが異常値を示す危険性が高まります。総合すると不規則な生活は、規則正しく働いている方に比べてメタボリックシンドロームや糖尿病にかか

る危険性を約2倍上昇させます。がんに関して言えば、シフトワークにより乳がんや前立腺がんの危険性が増すことが知られており、特に前立腺がんにかかる危険性は約3倍に跳ね上がりま

と考えられています。今回は、シフトワークを例に不規則な生活を過ごすことの危険性を述べてきました。シフトワークあるいは昼夜交代勤務というところ、看護師さんやコンビニの店員などの例を思い浮かべるかもしれませんが、普通のサラリーマンでも平日と休日の起きる時間が異なること、社会的時差ボケと呼ばれる状態になり、シフトワークをしているのと同様になります。

最近の話題の一つとして「働き方改革」が挙げられます。早い話が、からだ心が壊れる前に休みなさいと言うことです。ところが筆者もそうですが、現役世代では昼夜あるいは休日でも仕事をしてしまう方も多々います。自分の生活習慣を変えることは大変難しいことです。しかし人生一〇〇年時代において、健康でいるためにご自分の生活スタイルをどこかで振り返ることも必要ではないでしょうか。（日本大学薬学部教授）



すでに卒業後十七年 関東・東北中心に



原田 季奈

高五十四回卒

NHKで記者を始めて十年になりました。ここ数年は、「ニュース7」や「おはよう日本」などニュース番組の制作に携わっています。報道を志したのは大学院に入学した頃でしたが、社会の動きを見る仕事を選んだきっかけは高校時代にもありました。理数科で学んでいたのに、得意だったのが世界史。高3の夏に、もう勉強しなくていいといわれましたが、結局勉強していたような…。世界を大きくとらえ、語るのが好きでした。

記者となり、岩手と長野で取材活動をしました。いろいろな人に助けもらい、ともに活動してきましたが、今回ご紹介したいのは、長野県軽井沢の大槌会という住民有志の集まりです。軽井沢町は、東日本大震災の被災地。岩手県大槌町の支援活動を続けています。子供の交流や住民レベルで続く活動を、皆さんが共有し、連携を模索する場となっているのが大槌会です。年三回ほど会合があるのですが、本当に盛り上がります。私も盛り上げます！

私は、社会人二年目が終わる頃、盛岡市で震災を経験しました。その後十か月ほど大槌町や釜石市に滞在しました。その縁で、長野県に異動後、大槌会に参加している皆さんの活動取材していました。かつて被災地で出会った宝来館という旅館の女将さんや大槌



2019年9月大槌会

町の町長に軽井沢で再会するなど、つながりや縁を実感しています。そして特筆したいのは、なぜいままも活動が続いているかです。私見ですが、子供たちのチャレンジを否定することなく大人が後押しし、経験を増やす場になっていること。そして、被災地を思い、何ができるかを考える場が楽しいからです。東京にいる私にはできることは少ないのですが、そんな軽井沢の皆さんの姿を通じて、被災地を身近に感じてきました。

記者という職業につかなかったら、こんな出会いはなかったかもしれません。これからも出会いを大事に、そしてともに歩みたいと思っただけのように経験を積んでいきたいと思っています。

（NHKニュース制作部 記者）

2020年東京オリンピック・パラリンピック

7/24～8/9

8/25～9/6



パラリンピックに出場予定の掛川西高校同窓生の3人に声援を送りましょう！

山本 篤さん (高 53 回) 昨年の同窓会で講演して頂きました。

出場希望予定日程 【陸上競技】 T6 3クラス(片大腿切断など)

男子走幅跳 決勝 8/29 19:00

男子100m 予選 8/30 19:00 決勝 8/31 19:00

北京パラリンピック 走り幅跳び 銀メダル

リオパラリンピック 走り幅跳び 銀メダル・100m リレー 銅メダル

平昌パラリンピック 男子スノーボードクロス(LL1) 12位 (出典：パラサポ WEB・山本篤 FB)



杉浦 (野口) 佳子さん (高 41 回)

2018W 杯で完全制覇達成したパラサイクリング選手、2016年に自転車のロードレース中に落車し後遺症を負うが、パラ転向で活躍しています。日本人初となる UCI (国際自転車競技連合) による年間表彰「パラサイクリング賞」の受賞者の一人に選ばれました。

競技名・ポジション・クラス：【自転車】 C3 (高次脳機能障がいなど)

2018年 UCI パラサイクリングロード世界選手権ロードタイムトライアル(C2) 2位・ロードレース 1位 (出典：パラサポ WEB)



岡村 正広さん (高 41 回)

徐々に視力が低下し失明の危険が伴う進行性の難病に直面しながらも、高校、大学とランナーとして活躍し、卒業後には静岡地裁で事務官として働き、その後盲学校に入学しあん摩マッサージ指圧師や、鍼灸師の国家資格を取り、現在は自らが千葉県盲学校の教師として働きながら練習を重ねている。

競技名・クラス：【ブラインドマラソン】 クラス T12 REVIEW (2017)

出場希望予定日程：9月6日 クラス：【ブラインドマラソン】 クラス T12 REVIEW (2017)

2016年9月18日 リオパラリンピック銅メダル・2018年8月26日 北海道マラソン 2位

2015年8月30日 北海道マラソン 1位 (出典：JBMA・ウィキペディア等抜粋等)



オリンピック出場経験者

中山 (旧姓 高木) 紀子さん (高 14 回) 東京冀北会 前会長です。

高校でバドミントンを始める。1967年世界選手権がまだ開始されていなかった当時、個人戦の世界最高峰大会だった全英オープンでは1967年大会の女子シングルスで決勝進出を果たし、日本勢初の準優勝、1972年には初優勝を達成する。女子ダブルスでも1968年に天野博江 (掛川西高校出身) とのペアで日本勢初の準優勝、1971年は湯木博恵とペアを組んで日本勢初優勝を達成している。公開競技として行われたミュンヘンオリンピック女子シングルスでも優勝し、金メダルを獲得している。現在も日本バドミントン指導者連盟会長等を歴任している。 (出典：ウィキペディア等抜粋)



鵜藤 俊平さん (中 30 回)

競泳は旧制掛川中学校に入ってから始め、中学在籍時の1934年、名門中農 (現在の磐田農業高校) の強豪選手を破り、一躍注目を浴びる。「すぐに入学してベルリンを目指せ」という熱心な誘いに乗り卒業まで1年を残して1935年立教大学へ進学。1936年のベルリンオリンピックでは400m自由形で銀メダル(写真右端)、1500m自由形でも銅メダルを獲得した。戦後は生活が苦しく一時はメダルも質屋に預けたこと1950年に新潟日報に入社し、定年退職後は千葉市で農業を行っている。2000年に報じられた。存命であれば2018年の誕生日で100歳となり、確実な記録の残る日本のオリンピックメダリストでは初となるが、2001年以降生没に関しては報じられていない。



(出典：ウィキペディア抜粋 写真：中日新聞)

2019年4月に東京冀北会のHPに、ニューヨーク在住のスポーツライターの方から鵜藤

さんの所在について問合せメールが入りました。<アリゾナ在住のアメリカ人から「父が日本の友人にももらったベルリン五輪のメダルを、元の持ち主と思われる鵜藤俊平さんにお返ししたい」とのこと (画像参照) で連絡をとりたいのですが、……その後鵜藤さんはご存命とわかり、更に息子さんと連絡が取れ、オリンピックのメダルは鵜藤さんの手元にあるということです。>



● 東京東北通信 ●

◆伊藤 太平 中四十一回卒
お陰で元気で余生を楽しんでいます。

◆野口 文一郎 中四十三回卒
卒寿を迎えましたが来年のオリンピックまでは健康維持に努めたいと思っております。皆様の健康とご盛会をお祈り申し上げます。

◆石田 武 中四十四回卒
お陰様で元気で米寿を通過、次は卒寿へと精進中。母校の一層の発展を祈っております。

◆西井 啓二 高三回卒
仕事との都合にて出席出来ませんが盛会を祈っております。(非常勤医師)

◆伊藤 聡之 高四回卒
とりあえず元気に釣りを楽しんでいます。五月〜十一月、月一〜二回で対馬行です。

◆園田 清 高四回卒
体調不良(八月初旬、心筋梗塞)で自宅療養中。遠出不可の為、欠席します。

◆山崎 鏡子 高四回卒
住居地の自治会、近隣との交流、自身の健康維持に留意、それなりの(八十六才)生活を楽しんでおります。

◆平野 貞雄 高五回卒
ダンスの指導に精進しております。

◆平野 玲子 高五回卒
八十五歳になっても西高の同期生とは毎月会って雑談に昼食を楽しんでいます。沼田高校の卒業生との校歌交流を思い浮かべています。五回生の間では広島県立高校にも同様の校歌があると聞いていますか？

◆諸井 務 高六回卒
歩くのが難しくなりました。

◆伊藤 卓三 高七回卒
元気でです。ご発展を祈ります。

◆大橋 基宏 高七回卒
年齢相応に健康で過ごして居ります。

◆塩崎 武良 高七回卒
免許証を返納しました。タクシーを利用することが多くなりましたが何かと不便です。通販も多くなりました。

◆松村 新子 高七回卒
松村と二人で毎日ウォーキングを続けております。会のご発展をお祈り申し上げます。

◆川村 弘史 高八回卒
元気に年相応に過ごしています。

◆佐野 角夫 高八回卒
当日海外に出ている予定で欠席します。ご盛会をお祈りします。

◆花島 美喜子 高九回卒
隠居を楽しんでおります。ご盛会をお祈り申し上げます。

◆常盤 敏時 高十回卒
身体健康に問題はなく元気に過ごしています。東京東北会のご盛会を念じています。

◆萬代 利一 高十回卒
私は元気でですが、友人達(同期)が次々と亡くなり、寂しいです。

◆黒田 健之助 高十一回卒
病氣回復のリハビリ中です。会のご盛況をお祈りします。

◆鈴木 幸穂 高十一回卒
今月九月中には七十九才にもなり、長く病院通いをしてはいますが、元気度はある

るので地域自治体の中で各種楽しんでます。皆様によるしくお伝えください。

◆野末 栄一 高十一回卒
2020オリンピックの年までは出席(満八十才)。以降は引退予定です。

◆本間 正宏 高十二回卒
老夫婦になりましたが、元気に暮らしております。掛川へは久しく帰省しておりませんが、本校での総会も催されているのでしょうか。

◆山崎 進 高十二回卒
年に一度の東北会、同窓生にお逢いできるのが楽しみです。あと何回出られるかが一寸気掛かりです。

◆若林 宏和 高十三回卒
もうすぐ八十才ですが、元気でです。

◆大石 武郎 高十四回卒
先日、沼田高校の卒業生で、群馬大学の大学院生とある会合で一緒になり、校歌のことで驚かれ盛り上がりしました。

◆和田 三弘 高十四回卒
少々の仕事と遊びで元気に過ごしています。地球温暖化を大変心配しております。

◆神谷 達雄 高十五回卒
後期高齢者となり、健康を心配している日々です。

◆中山 信良 高十六回卒
ボランティア活動で忙しく過ごしています。

◆大角 幸枝 高十六回卒
展覧会に忙しい日々を送っております。

◆竹原 繁男 高十六回卒
三月に心臓の手術をし、正常に戻りつつあります。

◆石川 啓行 高十七回卒
昨年(二〇一八年十一月)完全退職、二人の娘の子供たち(孫)のサポート、主夫業見習い中です。掛川在住の仲間達と親交を楽しんでいます。

◆大久保 通則 高十八回卒
日油(株)社長を歴任された岡本さんは東北会の元会長として異分野の融合を推進されておりました。日本油脂(株)時代には溶接業界にも携われており、小生も研究者として溶接談義に参加させて頂き、技術伝承とモノづくりの基礎を教えて頂きました。ご冥福をお祈りします。

◆天野 堅治 高十九回卒
私は四季の移ろいを身近に感じながら、緑に囲まれた静かな住宅街で猫二匹と共に穏やかな日々を過ごしています。

◆石川 準次 高二十回卒
五年前にリタイアしてから介護施設やいろんなイベントでサックスを演奏しています。

◆稲垣 容子 高二十回卒
おかげ様で変わりなく穏やかな日々を過ごしています。

◆眞野 啓 高二十回卒
横浜市内で社交ダンスの普及活動をしています。

◆関戸 静子 高二十三回卒
時間に余裕ができたので、帰省した折には掛西の同級生とランチを楽しんでいます。皆元気で若くて嬉しいかぎりです。

◆萩田 哲司 高二十三回卒
ボランティアで相模原市「子供の居場所作り」楽々キッズに出ています。担当は小学二年生の勉強を見守りますが、孫の様な感じで自分も勉強させて頂いています。

◆石川 尚子 高二十六回卒
退職後も花や野菜を育て、小さなボランティアと地域の活動に参加しながら元気に過ごしております。

◆長沢 初江 高二十六回卒
今年も東京冀北会を楽しみにしていました。幹事の皆さんありがとうございました。仕事をリタイアしたので、あちこち遊び歩いています。

◆石山 博巳 高二十七回卒
読書三昧十猫の世話の毎日です。

◆川村 敏幸 高二十七回卒
今年の高校野球、二回戦で残念でした。来年の活躍を期待しています。

◆戸塚 忠治 高二十七回卒
盛会をお祈りします。この三月に松本亀次郎、周恩来の師弟像が中国、天津市より寄贈され、掛川市立大東図書館に展示されています。帰郷の折にはお立ち寄り下さい。亀次郎の会にも少し関わっていますので。(掛川西高校前校長)

◆石井 礼子 高二十八回卒
定年が六十五才となったため、現在も常勤で務めております。最近では体力が衰え、仕事がかきつかないかと感じております。

◆岡山 靖 高二十八回卒
同級生との交流も東京支部だけでなく本校ともつながりができ、自身はげみにもなっています。人生百年時代、頑張ります。

◆米澤 由美子 高二十九回卒
再任用の校長として小学校に勤務しています。当日は行事が計画されており、残念ながら出席できません

◆田中 由枝 高三十回卒
2020東京オリンピック・パラリンピック大会のホームステイ・ボランティア

アとして微力ながらお手伝いさせて頂いております。先日も某国大使と秘書の方が我が家にステイされました。ラグビーW杯も盛り上がりつつあります。

◆田中 保次 高二十八回卒
当日はあいにく別件が入っており、出席ができません。日本をねらうサイバー攻撃から日本企業を守る業務で多忙の毎日です。

◆高須 沙知子 高四十八回卒
五月末に令和ベビーを出産致しました。まだ子供が小さく今回は出席できなくて残念です。NHK静岡放送局に在職中、転勤で静岡に来たディレクターさんが沼田高校出身でした。夏の高校野球で掛西校歌を聞いたディレクターさんから、「校歌が似ている！」と言われ、それを調べて番組の企画をしようと提案書を作ってくれましたが、実現できなかった思い出があります。

※紙面のスペースの都合上、掲載できないメッセージがありますことをご容赦ください。

訃報

◆岡本 甲子男 中三十八回卒
二〇一九年七月一四日逝去

◆國吉 昌一 中四十回卒
二〇一八年八月逝去

◆青木 昭成 中四十一回卒
二〇一七年五月十八日逝去

◆赤堀 松雄 中四十二回卒
二〇一九年五月逝去

◆山下 修一 中四十四回卒
二〇一九年二月一九日逝去

◆杉山 昌 高一回卒
二〇一九年六月二十六日逝去

◆杉本 和雄 高三回卒
二〇一八年九月二日逝去

◆鈴木 章雄 高三回卒
二〇一九年逝去

◆高柳 弘 高三回卒
二〇〇八年二月二十五日逝去

◆塩崎 忠良 高四回卒
二〇一九年六月十日逝去
(掛中から高校と六年間通学、人生で一番楽しい期間であったらと思うます。妻)

◆柴田 静男 高四回卒
二〇一九年五月逝去
(父は生前、掛川の話を楽しそうにしておりました。家族)

◆石井 美和子 高八回卒
二〇一九年六月逝去

◆伊藤 傳代次 高八回卒
二〇一九年九月逝去

◆戸塚 好司 高十一回卒
二〇一八年九月二十二日逝去

◆森田 要 高十一回卒
二〇一九年逝去

◆新井 智枝 高十二回卒
二〇一九年六月逝去

◆前沢 紘一 高十六回卒
二〇一九年五月逝去

◆後藤 一夫 高二十回卒
二〇一七年十月逝去

◆中里 秀美 高三十回卒
二〇一九年六月三日逝去

★【東京冀北会メーリングリスト】
現在利用中の「freeML」の12月2日サービス終了に伴い、「googleグループ」に移行します。現在登録中の方、及び本年の返信ハガキにて新規にアドレスをご記入頂いた方に対して、差出人「東京冀北会ML」から「東京冀北会MLへの招待状」というメールを順次をお送り致します。招待状メールが届いたら **この招待を承認** のボタンをクリックして頂き、引き続き参加をお願い致します。

★【東京冀北会 Facebook】
友達のみ公開で立ち上げました。
<https://www.facebook.com/tokyo.kihokukai>
「友達申請」をお願いします。

QRコード

会員ひろば

能楽を楽しむ会



有志によるゴルフ会

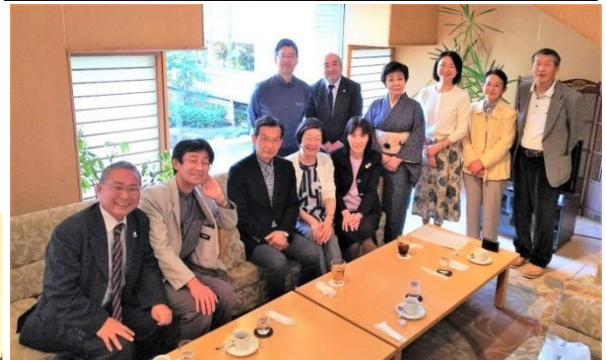


2019/6/28 東京よみうりカントリークラブ

21回卒「卒業50周年記念」



26回卒「第3回小笠山26会」



2019/3月同窓会の打合せ

2019/7/18 渋谷セルリアンタワー能楽堂

2019/6/28 レストランアラスカ

2019/4/6 掛川グランドホテル

歴史探訪 三谷充弘さん

好評！HP掲載中

- 第22回 東京の横須賀藩士たち(6)
- 第21回 東京の横須賀藩士たち(5)
- 第20回 『百二十年史』への思い
- 第19回 『林氏事蹟余話』
- 第18回 たまにはミ〜ハ〜

29回卒 幹事学年

2018年東京冀北会同総会7ホト



掛川西校第 19 回卒同期会
(昭和 42 年 3 月卒業)

令和 2 年度開催

日時：令和 2 年 4 月 1 8 日(土) 12:30 より

場所：千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル 9F
レストランアラスカ パレスサイド店

みなさん、元気に集合しましょう!!

連絡先幹事：鈴木正具 090-4061-8084
田口幸男 090-2919-1687

掛川西高等学校1969年卒業

(高21回)東京同窓会

* 隔年で同窓会を開催しています。

連絡先：森田重敏

電話：042-747-0115

携帯：090-1654-5742



会員ゴルフ会

興味のある方、是非メールアドレスの登録を！
東京冀北会のゴルフ会復活第三回が今年の 6 月 28 日に東京よみうり 00 にて開催されました。
次回来年になりますが、是非多くの参加者を期待しています。連絡をお待ちしております。



鈴木正具 (高 19 回) 090-4061-8084
mail:msuzuki@jonesday.com



めのかよう医療・福祉を担う皆さま、お皆さまへ
善仁会グループ



総合健診センター
ヘルチェック
●健診センター
●巡回健診

健診部門

生活習慣病の
予防から
健康づくりまで

腎部門

豊富な経験で
信頼に応える
腎疾患治療

横浜第一病院
吉祥寺あさひ病院
●病院
●人工透析クリニック

医療法人社団
善仁会



老人医療
福祉部門

ご家族まで
満足いただける
高齢者ケア

介護老人保健施設

●ハートフル瀬谷 ●ユアイピラ

ふれあい訪問看護ステーション他

医療法人社団 善仁会 理事 内田金男 (高 22 回卒)

神奈川県横浜市西区高島二丁目 6 番 3 2 号 TEL 045-453-6772

<https://www.zenjinkai-group.jp/>



地域住民の健康に薬を通じて貢献いたします。

皆様のかかりつけ薬局としてお薬に関すること、お困りのことがございましたらご相談ください。
お薬を取りにいけない方のために在宅業務も行っております。

有限会社ケアブレン ～ くすの木薬局グループ ～

代表取締役 **山村 十吉** (高23回卒)

〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-5-1 大手町 NS ビル B1

- ◆くすの木薬局 〒182-0034 東京都調布市下石原 2-32-2
- ◆ひまわり薬局 〒275-0016 千葉県習志野市津田沼 3-23-12
- ◆くすの木薬局 矢口渡店 〒146-0095 東京都大田区多摩川 1-20-13
- ◆くすの木薬局 豊田店 〒191-0053 東京都日野市豊田 4-34-7 オーチャード 1F103 号室
- ◆くすの木薬局 保谷店 〒202-0012 東京都西東京市東町 6-6-12 西東京市メディカルモール
- ◆こま薬局 〒350-1254 埼玉県日高市久保 274-19

《 創業明治十五年 》



藪伊豆總本店

一階テーブル席
二階テーブル席・堀炬燵
三階お座敷

東京都中央区日本橋3-15-7
電話 03(3242)1240 FAX03(3242)1242
<http://www.yabuizu-souhonten.com>

野川 雅江 (高26回卒)

～ 能に触れてみませんか ～

謡(能の歌謡)、仕舞(能の)を通して伝統の世界に
触れてみませんか。
お稽古は月二回。各所にて行っております。
詳細はHP (<https://nohgakudan.jimdofree.com/>)
をご確認ください。
公演情報なども掲載いたしております。

高 39 回卒 長谷川 晴彦
☎090-3339-6559 ☐hasegawa@nohgakudan.jp

嶽本あゆ美戯曲集 (高校37回卒)

「太平洋食堂」 「彼の僧の娘」

明治末期の大逆事件を熊野から描いた歴史大作
2019年2月発刊！全国書店、Amazonにて発売
解説・成田龍一(日本女子大学教授、近現代史)

ハーベスト社

西東京市向台町2-11-5
tel : 042(467)6441

好評既刊「演劇に何ができるのか？」アルファベータブックス



第30回東京冀北会総会・懇親会会計報告

(平成30年11月17日)

出席者	会員 95名 (1・2部のみ参加94名)	
	来賓 7名 (石川嘉延同窓会長他6名)	
	計 102名	
収入の部		
懇親会費	8,000円 × 92名	736,000円
年会費*	3,000円 × 235名	705,000円
祝儀	4人	40,000円
広告代収入	14名	99,000円
書籍販売(3冊)		4,860円
計 (A)		1,584,860円
(*年会費は今年度より事前振込分も算入する)		
支出の部		
会場・懇親会費 (レストランアラスカ)		642,346円
講演料		150,000円
書籍代 (110冊)		178,200円
諸経費 (来賓土産・会報印刷代・講演者等交通費等)		210,038円
計 (B)		1,180,584円

差収入 (A)1,584,860 - (B)1,180,584 = 248,722円
(余剰金248,722円は一般会計に繰入)

寄贈品	赤岩寛様(高10)・栗田民雄様(高17) 鈴木正具様(高19)・森田重敏様(高21) 山村十吉様(高23)・野川雅江様(高26)
-----	--

平成30年11月18日
東京冀北会事務局長 山村十吉(高23回卒)

平成30年度東京冀北会収支報告

平成30年4月1日～平成31年3月31日

(収入)	前年度繰越金	807,159円
	年会費 郵便振替分(160名)	480,000円
	銀行振込分(6名)	18,000円
	現金納入分(69名)	207,000円
	幹事会費等個人負担分(7/11・1/16)	173,000円
	総会・懇親会参加費(92名)	736,000円
	広告費収入(14件)	99,000円
	雑収入(祝儀・書籍販売・預金利息)	44,941円
	収入合計 (A)	2,565,100円
(支出)	印刷費(案内状、会報)	94,724円
	総会通知郵送費(1,897通)	155,554円
	総会返信後納費 ^{*1}	26,180円
	総会・懇親会費	1,085,860円
	幹事会・反省会等費用 ^{*2}	256,640円
	通信費(郵送料等)	83,125円
	事務費・振込手数料	17,591円
	各支部ご祝儀・交通費(掛川・浜松)	55,000円
	支出合計 (B)	1,774,674円

(収支残高) (A - B) (次年度繰越金) = 790,426円

【資金管理】	郵便貯金	766,000円
	みずほ銀行	10,136円
	現金	14,290円

会計監査 橋本和久(高19回卒)

校歌

作詞 藤井金吾
作曲 塙福寿

一、岩根ごごしき天守台
その麓にぞわが校は
基定めて逆川の
栄え行くこそ樂しけれ

二、雨降り嵐すさぶとも
指してや行かむ小笠山
希望の懸を射るまでは
わげず撓まず崩折れず

六、やがてまことの功なし
誉れは栄ゆる百錦
飾りて花の色そへよ
大和島根の山桜

第一応援歌

作詞・作曲 不詳

一、天守の森に草萌えて
志ある若人の
胸の血潮の燃ゆる時
咲くや万葉の花ごろも

二、青苔敷ける逆川の
青葉端月に風吹けば
熱血ほほにみなぎりて
見よや勇士のまなざしを

三、立てよ我等のますらをよ
ふるへ我等の同胞よ
七百望みは胸に燃え
衷心至誠の血はおどる

《ホームページ》

『東京掛中・掛川西高校同窓会 東京冀北会』

<http://www.tokyo-kihokukai.com/>

《メーリングリスト》 google グループにて継続

《Facebook》新規開設 →11Pにて紹介

問合せ先：東京冀北会 事務局

東京きほく会
検索



発行日 令和元年 11月 16日
発行者 鈴木 正具
発行 東京冀北会

《編集後記》事務局 端詰正子(高24回)

今年も台風は15号・19号と全国に甚大な被害をもたらしました。被災された方々には、心よりお見舞い申し上げます。

9月14日付の嶽本あゆ美さん(高38回)のメーリングリストでも台風15号による千葉の状況が投稿されましたが、19号による二子玉川や武蔵小杉等多摩川流域、地元菊川の前代未聞という冠水の被害のニュースに驚き、地球温暖化により深刻化している自然破壊に不安を感じます。しかしまた「即位の礼」の時刻に雨がやみ、皇居周辺に日がさし虹が出るという自然界の神秘的とも言える現象に明るい感動を覚えました。

さて、HPの問合せ欄には、外部からアクセスが入ることがあります。今年印象に残っているのは2件です。1件はオリンピック選手、鶴藤俊平さんのメダルの件で紹介致しました。

もう1件は今年5月、故鈴木由次様(中38回)の娘さんからです。「たまたま、池田孝子さん(高14回)と同じ町内に住んでおり、昨年初めて冀北会会報第30号を拝見し、父の名前を発見して大変に驚いた次第です。三谷充弘様の寄稿文にある、「福田恆存先生」のご家族の疎開に助力したのは確かに私の父です。父と先生の交流は、先生が亡くなるまで続きました。…(省略)池田さんにも会報30号に寄稿して頂いております。不思議な繋がりを感じます。